

《2026年》第43回宮崎県柔道選手権大会要項

(兼 全日本柔道選手権大会県予選会並びに全日本女子柔道選手権大会県予選会)

- 1 大会趣旨 本大会は、宮崎県内において選抜された選手による各部門の県選手権を競うとともに併せて一般男子及び一般女子については、全日本柔道（女子）選手権大会に連動する九州（女子）柔道選手権大会県代表選手の選考を行う。
- 2 主 催 宮崎県柔道連盟 宮崎日日新聞社
- 3 主 管 宮崎地区柔道会
- 4 後 援 宮崎県教育委員会 公益財団法人宮崎県スポーツ協会 宮崎市
宮崎県武道協議会 株式会社宮崎放送 株式会社テレビ宮崎
- 5 期 日 2025年2月8日（日）午前9時30分 開会（試合開始10:00）
武道館開門 ～ 午前8時
審判監督会議 ～ 午前8時40分（2階会議室）
- 6 会 場 ひなた武道館（宮崎市大字熊野 県総合運動公園内）
- 7 出場資格 ①10の部門別に定める選手構成及び各部門選考担当より選考された選手。
②宮崎県内居住者で令和7年度（公財）全日本柔道連盟登録を完了した者。
※全柔連未登録で大会出場した場合には、その選手を失格とする。
③大会要項に定める大会（参加）登録料を納入済みであること。
④一般男子の部及び一般女子の部は日本国籍を有する者とする。

8 部 門 別

(1) 男子部門（体重無差別）

- ① 小学5年生以下の部 約24名以内
- ② 小学6年生の部 約24名以内
県少年学年別柔道大会及び県少年柔道大会等の成績を参考に
県柔道場連盟選考委員で選出。
- ③ 中学1年生の部 約24名以内
- ④ 中学2年生の部 約24名以内
秋季大会等を参考に中学体育連盟柔道専門部で選出
（委任）＋道場関係3～4名
- ⑤ 高校1年生の部 約24名以内
- ⑥ 高校2年生の部 約24名以内
県下高校新人大会の団体戦ベスト4以上校は、各学年4名以内
その他の高校は、各学年3名を選出することが出来る。
- ⑦ 一般男子の部（九州柔道選手権大会県予選）
オープン参加とする。県警察、旭化成の選手は、序列をつける。
令和7年度全日本柔道選手権出場者の鈴木、後藤選手（旭化成）の2
名は推薦選手とし、本大会の上位4名の選手を加えて計6名が県代表
として九州柔道選手権大会【2026年3月1日（日）福岡武道館】へ
の出場権を得る。
なお、補欠選手を1名選出する。

(2) 女子部門（体重無差別）

- ⑧ 小学生の部 約24名以内
県少年柔道学年別大会及び県少年柔道大会等の成績を参考に県柔道場連盟選考委員で選出。体重制限なし。
- ⑨ 中学生の部 約24名以内
秋季大会等を参考に中体連柔道専門部で選出＋道場関係 3～6名
- ⑩ 一般女子の部（九州女子柔道選手権大会県予選）
オープン参加とするが、高校生は令和7年度宮崎県高校総体、宮崎県ジュニア大会及び宮崎県高校新人大会において個人戦各階級ベスト4以上の者とする。
中学生は大会当日において中学1年以上の者とするが、九州及び全国大会の個人戦において第3位以上に入賞した者に限る。
本部門決勝進出者2名が九州女子柔道選手権大会の出場権を得る。
なお、3位決定戦を行い補欠選手も決定する。

9 各部門選考担当者

区分	選考担当者
小学5年生以下の部 小学6年生の部 小学生女子の部	県柔道場連盟から選考された委員で実施し選考する。
中学1年生の部 中学2年生の部 中学生女子の部	県中体連柔道専門部選考委員会委員で実施し選考する。 一部、県柔道場連盟選考委員を含む。
高校1年生の部 高校2年生の部 一般女子の部	県高体連柔道専門部選考委員会委員で実施し選考する。 但し、一般の社会人、大学生はオープン参加

10 試合方法 試合は、トーナメント方式によって、各部門の優勝を決定する。

11 審判規定

- (1) 試合は国際柔道連盟(IJF)試合審判規定及び申合せ事項による。(各部共通)
- (2) 小学生の部及び中学生の部は、国際柔道連盟試合審判規定及び国内における「少年大会特別規定」を合わせて適用する。
- (3) 各部門
- ① 小学生の部
判定の基準は、一本や反則負けがない場合は「技あり」「有効」又は「僅差」(指導差が2)とする。
スコアが同等の場合や指導差が1の場合はゴールデンスコアは行わず、判定により勝敗を決する。
- ② 中学生の部及び高校生の部
判定の基準は、一本や反則負けがない場合は「技あり」「有効」又は「僅差」(指導差が2)とする。
スコアが同等の場合や指導差が1の場合はゴールデンスコアにより勝敗を決する。
ゴールデンスコアは、本戦で与えられたスコア及び罰則がそのまま反映され、「技あり」以上及び「指導」の数に差がついた時点で勝敗が決する。
※詳細は高体連、中体連申し合わせ事項に準じて実施する。

③ 一般男子・女子の部

国際柔道連盟試合審判規程および全日本柔道選手権大会申し合わせ事項にて行う。

- 試合時間は、5分間とする。
- スコアは「一本」「技あり」「有効」の3種類とし、「技あり」2つで合せ技「一本」とする。
- 抑え込みの時間は、20秒間で「一本」、15秒以上で「技あり」、10秒以上で「有効」とする。
- 「指導」による罰則は、4回目が与えられた時点で「反則負け」とする。
- 試合時間内に勝敗が決しない場合は、判定にて勝敗を決する。判定基準は試合態度、技の効果と巧拙及び反則の有無等を総合的に比較する。攻撃を高く評価するため「指導」の数のみを持って判定の材料とはしない。
- 立ち姿勢において、相手と組んだ状態で攻撃・防御のために、相手の帯から下を掴む(触れる)ことは反則(指導)とはしない。但し、相手と組んでいない状況で直接相手の帯から下へ攻撃を行うことは反則(指導)とする。
- 寝姿勢から立姿勢に移行したときには、「待て」を宣告して試合を止める。
- 試合は、試合場内で行うものとする。立姿勢においては、両足が場外に出るか相手を故意に場外に押し出した場合は反則(指導)とする。
- 立姿勢において、標準的ではない組み方を継続する若しくは繰り返す場合は反則(指導)とする。但し、直ちに攻撃を行えば「指導」は与えない。

(4) 柔道衣

一般男女の部は 2022 年 1 月から国際柔道連盟が改正した柔道衣コントロールで実施する。※詳しくは別紙参照 全柔連柔道衣規格に合格した柔道衣(上衣、下穿、帯)を着用すること。

ただし、一般男女に出場する高校生については全国高等学校体育連盟の規定に準ずるものとする。

高校生の部は全国高等学校体育連盟の規定に準ずるものとする。

中学生の部以下は上記規格か全柔連柔道衣規格に準じた大きさの道衣を着用すること。

※各部共通

柔道衣の大きさ又は規格が規定に合わない場合は出場を認めない。(主催者は予備の柔道衣を準備しない)

各部門の柔道衣の規格に合わせたゼッケン(道場名・学校名は問わない)を付けた柔道着を使用すること。

- | | | |
|----|---------------|---|
| 12 | 試合時間 | 小、中、高校生の部は、3分間。
一般女子の部、一般男子の部は、5分間とする。 |
| 13 | 出場方法
及び参加料 | (1)各部門(小学生～高校生の部各学年別)の各部門選考担当者が、部門別選考上の協議を実施し、選手を選考後、選手決定文書及び所定の出場申込み書を該当者に送付する。
(2) <u>選考担当者は、選考した選手名簿を2025年11月17日(月)迄に、県柔連宛送付すること。(期日厳守)</u> |

(3) 出場申込方法（申込書に写真不要）

各地区事務局→県柔道連盟事務局あて送付すること。

① 小学生～高校生の部

出場申込書及び大会参加料を、各学校や所属団体はそれぞれ一括し、地区柔道会事務局宛に送付する。

② 一般女子の部、一般男子の部出場申込み方法

一般オープン参加者は、出場申込書及び大会参加料を各所属で一括、また個人出場者は直接、地区柔道会事務局宛に送付する。

(4) 出場申込み書提出及び大会登録料納入期限（期限厳守）

※各地区柔道会は、出場申込書に、必要な事項の記入漏れはないかを確認して、2025年12月19日（金）まで下記宛て必着のこと。遅れた場合は参加を認めない。

〒880-0936 宮崎市天満1丁目1-15 コアハイム天神 205号

宮崎県柔道連盟 事務局 宛 TEL(0985-74-7123) FAX(0985-74-7776)

(5) 大会参加料

選手は出場申込書と同時に参加料一人2000円を各地区事務局に納入し、各地区は、一括、提出期限までに納入すること。

※大会参加料納入後に欠場選手への返金はしないものとする。

(6) 傷害保険の任意加入等

主催者は傷害保険には加入しないので各自、任意の傷害保険に加入して対応すること。

本大会の会場において事故が発生した場合、予め主催者が手配した医師、看護師等の医療関係者が応急処置を行ったり、医療施設への救急搬送の必要性を判断の上搬送を行い、または行わないことがあるが、これらの処置、判断等について故意または重過失が無い限り主催者、医療関係者は責任を負わない。

地区事務局
振込先

14 組合せ
抽選

2026年1月10日（土）県高等学校柔道選手権大会終了後、ひなた武道館柔道場役員室にて、選考担当者及び本連盟から指定された選考委員により厳正に行なう。

15 表彰

優勝、第2位、第3位（2名）を表彰する。

16 問合せ先
連絡先

17 その他

(1) 試合場におけるコーチの振る舞い

① コーチの場所

原則として各試合場の正面と反対側、又は試合場の横側にコーチ1名を許可する。

② コーチの言動

試合が止まっている間(「待て」から「始め」の間)のみ、選手に対して指示を与えることができる。試合続行中は、選手に対して指示を与えることは禁止とする。

(2) 皮膚真菌症(トンスランス感染症)について

発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手は、迅速に医療機関において的確な治療を行うこと。大会時に、選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができない場合もある。

(3) 脳振盪対応について、選手及び指導者は以下の事項を遵守すること。

- ・大会前1ヶ月以内に脳振盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け、出場の許可を得ること。
- ・大会中、脳振盪を受傷した者は継続して当該大会に出場することは認めない。(受傷した時点で必ず専門医を受診すること)
- ・練習再開に際しては、脳神経外科の診察を受け、許可を得ること。

(4) 個人情報及び肖像権の保護について

① 個人情報の観点から、参加申込書に記載された個人情報については、本大会を運営する目的以外には一切使用しないものとする。

② 大会会場において、係員等が撮影した写真や動画については、宮崎日日新聞社及び宮崎県柔道連盟の紙面・ホームページ等に掲載する場合がある。

※本大会の出場申し込みにより掲載を承諾したものとみなします。

以上